

S M I L E

長崎市水泳連盟 競技役員新聞 7号 平成20年10月12日

秋の大祭「長崎くんち」も終わり、すっかり秋めいてきました。水泳のシーズンが「夏」だったのは昔のこと。今月も県スプリント選手権が開催され、オフシーズンといわれた冬季の大会でも選手たちはベスト記録更新に挑戦しています。長崎市内の開催試合が続きますが、「記録が出る大会」を演出する喜びを持って大会運営に望みたいところですね。

来月末には恒例の大忘年会を予定しています。役員相互の親睦と、熱い水泳談義で楽しい夜になるとと思います(紙面・案内をご覧ください)。

競技役員インタビュー Vol.7

プロフィールFILE

「スペシャルオリンピックス(SO)日本」の活動をご存じですか? SOとは、知的発達障害のある人たちに様々なスポーツトレーニングとその成果の発表の場である競技会を、年間を通じ提供しているスポーツ組織です。SOではこれらのスポーツ活動に参加する選手たちをアスリートと呼んでいます。

平成16年度から長崎でも市民プールとハートセンターを活動の拠点として普及活動が始まりました。その中心となったのが中路先生と野口先生です。今回は、お二人に加えて現在水泳指導に携わっている川野先生の登場です。

中路エミ子さん(SO長崎水泳競技委員長)

「ねずみ島に行きたかった」と幼い頃のことを振り返った中路先生。本格的に水泳に携わったのは実は保護者として、多くの子供たちに水泳の楽しさを伝えたいと昭和55年頃から、初心者指導を中心に小学生・中学生の指導に当たっています。今年度のSO長崎水泳大会終了後、「自分たちの将来に役に立ちました」(長大医学部三好さん)とメールを頂いたことがとても嬉しかったし、ボランティアで多くの競技役員の方々に協力してもらい感謝しています。現在の楽しみは泳ぐこととドライブ。可愛いお孫さんの成長が楽しみです。

野口明子さん(SO長崎大会実行委員長)

「やりたいことが多くて迷います」と常に活発で行動力が魅力的な野口先生。中学から高校まで岐阜県で水泳選手として活躍しました。東海大学進学後はワンダーフォーゲルの世界に。結婚を機に長崎に来ました。体育指導員から水泳の世界に入ったのが昭和54年。以来、幼児・児童・SOに留まらず、岩屋中学校のコーチとしてもご活躍中です。趣味は旅行です。ドライブがとても好きですがスピード狂との噂も...

川野梓さん

つい最近まで現役スプリントスイマーとして活躍していた梓さん(旧姓山本)。瓊浦高校3年生の時に県スプリント選手権で県高校新も樹立しました。現在は水泳を通じた縁で優しいご主人とご結婚。一男一女の子育てに奮闘中です。中路先生からのお誘いでSOの指導に参加し「子育てに生かせるし、なにより人生勉強になります!」と笑顔で話します。「高速水着を買ってみようかなあ...」とまだまだ記録向上に意欲的なママさんスイマーです。



コラム 「音楽ある人生...選曲の喜び」



今、音楽を聴きながらこの原稿と向かい合っている。ゆっくりくつろいだ時間を過ごしているな、とお思いでしょうか、さにあらず。

思えば、現長崎市民プールが完成した平成8年から、競技会における決勝の進め方が音楽にのって選手が入場するスタイルとなった。それ以来十数年、大会前になると先のような状況に追い込まれて苦勞している。できるだけ新しくて乗りのいい曲を、が選曲方針。ああ、今回もまた寝不足との戦いになりそうだ。

児島敏則(長崎市水泳連盟理事 長崎南山高校英語科教諭)

お知らせ

長崎市水泳連盟懇親会(忘年会)

日時:平成20年11月29日(土) 午後6時30より
会場:ウエルシティ長崎(長崎厚生年金会館) 茂里町3-20 TEL095-845-0860
会費:3,000円(学生は2,000円)
連絡先:事務局 中路アミ子 095-856-4832(自宅) e-mail yoshi@ngs1.cncm.ne.jp
参加締め切りは11月19日(水)です。

隠し芸 急募!!!

昨年以上の盛り上がりが予想される懇親会ですが、今年は歌・劇・手品などなど、皆さんからの「一芸」をご披露いただければと思います 申込みは不要ですが、当日先着順となりますよ!

大分国体 視察記

9月15日(月)に大分県別府市の別府青山プールで行われていた大分国体の視察に行ってきました。視察参加者は荒木・安達・塚原・川野・松尾の5名です。

大分国体は施設を新設・屋内化せず、従来の青山プールの改修で対応していました。スタンドには屋根が新設され、日差しや降雨にも対応できており、観客には周囲の緑や大分湾・鶴見岳の景色とプールの鮮やかなブルーが印象的に写りました。一方でプールは屋外プールということもあり、視察した大会最終日は土砂降りのなかで、競技役員は苦勞をしていました。役員控え室や選手村も仮設のプレハブで作られていましたが、コンパクトな大会とはいえ、準備・運営ともに苦勞が多かったと思います。

長崎インターハイの頃とは大きく異なる点もありました。例えば、競技演出のこと。観客席中央にカラーのスクリーンを設置し、競技を盛り上げます。機械審判装置も全国大会規模となると質・量ともに充実していました。なかでも水中カメラと陸上カメラの併用によるバックアップシステムが今後は標準化されそうです。(撮影は許可されませんでしたが、選手の水中から見たターン及びゴールタッチシーンはモニターに鮮明に写し出されます)

弁当とゴミの手配・決勝進出者リストの印刷・場内整理など、プールアリーナ以外の部分は来年度以降も随時視察が必要だと思います。

来年は鹿児島で競技役員講習会が開催されますので、ご希望の方はお早めに!



トラブルの未然防止を

先日の学童大会では恐れていた事が発生しました。理由はどうであれ、児童生徒の教育の場でもある競技会で、行政機関に協力を求めなければならなかった事を深くお詫びいたします。「選手より保護者をなんとか」との声が多く寄せられています。再発防止に向けて早急に対応を検討しなければなりません。ご意見をお待ちしています。

【編集後記】

国体視察の折、実は「別府に行って温泉に入らないとは情けない」と強引に入浴も決行してきました。海岸線の露天風呂から見える別府湾。競技役員としてずぶ濡れで泳法審判をしていた「太っ腹な方」を思い出しながら疲れを癒してきました。心残りは鳥天を食べられなかったこと。強引な日帰りツアーもいとたのし。(荒木)